

障害学生への支援状況

別府溝部学園短期大学は障がいのある受験生・学生を対象として障害者の障がいの状況に応じた合理的配慮を行っています。

○聴覚障害者

入試：聴覚障害者に対しては障がい者特別入試として、受験生の症状に配慮した選考を実施しています。入試の日程や選考内容を決めるに当たり、事前に在学している学校の教員や保護者・本人と打合せを行います。具体的には入試の会場に手話通訳者を手配し、受験生のこれまでの制作物や特技などを表現していただき、学修に対する目的や目標、将来の職業・夢などを確認します。

入学前：聴覚障害学生の学修環境を大学と学生の双方に最適な環境整備を行います。全教職員を対象に、障がい学生への対応学修を行い、障がい学生への特別な配慮・授業方法を準備していただきます。

入学後：入学時のオリエンテーションでは、全学生に対し障がい学生の対応について学習会を開き、周知していただきます。

授業：聴覚障害学生の受講のために、対象学生と相談の上、手話通訳者の手配・ノートテイクについて、視覚情報を有効にするため ICT を活用した教材の活用、ロジャーマイク（学生と教員間の通信装置）を全ての授業で利用する。等々の対応を行います。

就職支援：就職支援室及びクラス担任と学生とで、就職に就いての対象学生の希望調査や具体的な要望等を聴取します。その後、希望職種にあった企業等を紹介し、受験対策を個別に行います。

（例）Aさんは、ライフデザイン総合学科グラフィックデザインコースで ICT を利用した技術や知識を習得し、デザイナーとして一部上場企業に障がい者枠で正社員として就職しました。

○身体障害者

入試：障がいの状況により、選考方法・選考日時等の調整を行います。下半身に障害がある受験生で、筆記試験に支障がなければ通常の選考方法で受験を検討します。手指等の障がいがある受験生には、面接試験を中心に選考を検討します。

入学前：身体障害学生の障がいの状況により、エレベーターの利用や段差のある教室等には特別な施設改修等を行います。

入学後：入学時のオリエンテーションでは、全学生に対し障がい学生の対応について学習会を開き、周知していただきます。

授業：障がいの状況により、体育や身体を活用する授業には、特別な配慮を行います。

就職支援：就職支援室及びクラス担任と学生とで、就職に就いての対象学生の希望調査や

具体的な要望等を聴取します。その後、希望職種にあった企業等を紹介し、受験対策を個別に行います。

（例）Bさんは、小児の時に熱性の障がいを発症し、右足の成長障害となり歩行に支障がでました。そのため階段や段差のある所での移動が困難でした。そこで相談の上、合理的配慮として、エレベーターの利用を促進し、段差のある所には低い踏み台や手すりを設置しました。就職先は行政職員として就業しましたが、その後、左右の足の大きさが異なることで、靴の購入が2倍の支出を体験してきたことで、自らの体験を踏まえ起業しインターネットを活用した障がい者向け販売を始めました。在学中から課題解決を目指した学修を続けてきたことが活かされました。